

互いの文化と価値観への理解

“海と山ほど違う”—日本でよく使われる表現にある通り、カナダと日本の文化は、大きく異なっています。

アイスホッケーと相撲、ロベール・ルパージュの演劇と歌舞伎—カナダ人と日本人は、互いに相手の文化が得意とするものに対して理解と尊重の度を深めてきました。過去1世紀の間、両国は独自性と創造性に溢れた魅力ある自国文化を、相手側に示そうと努めてきたのです。

日本は、東洋や西洋の文化を長い期間にわたって吸収してきたにもかかわらず、自らの慣習や伝統を決しておろそかにしていません。日本人は自己の歴史と文化を誇りに思っています。そしてまた世界において、自らの文化や芸術表現を持ち、その維持保存に努め大切にす民族を高く評価します。

日本のように長い歴史はありませんが、カナダは太古からの土地です。先住民族が住み着いた昔から、フランス植民地やイギリス植民地の時代、そしてカナダ連邦結成後、世界中からの移民受け入れに至る歴史があり、その結果、今日のカナダは多種多様で豊かな文化的モザイクの様相を呈しています。

カナダは極めて多様な社会であるため、いわゆる「カナダ文化」とは何か、日本人々にはイメージしにくいところがあるかもしれません。カナダ文化は魅力ある才能や

様式、あるいは観念の素晴らしい宝庫であり、日本の人々もこうしたカナダ文化の価値を認めるようになってきました。先住民族のダイナミックな文化、そしてフランス語と英語で作品を生み出す能力……こうしたカナダ文化の特徴は、特別な魅力を持っています。

1976年に「日加文化協定」が締結されると、両国の様々なグループ間の交流が大いに活発になりました。日本でもカナダでも公的資金や民間の基金による援助にも支えられてきました。

カナダのアーティスト、ミュージシャン、ダンサー、作家たちは、日本に徐々に浸透し、人気を博すようになりました。一方、カナダでは1995年に開催された「Today's Japan」のような日本紹介の大規模な文化イベントが、鑑賞力あるカナダ人に日本文化の意味を伝えました。

カナダは国および地方政府レベルで、人種・言語・宗教の多様性を大事にする政策をとる、世界でも稀な国のひとつです。まだ理想には遠いにしても、文化や芸術が、エンターテインメントとして、国民性やアイデンティティの優れた表現として、あるいはまた、より良く理解するための共通の土台として、日加関係を豊かに実らせる不可欠な要素となってきています。

